



宮本 奏

Kanade Miyamoto

INTERVIEW

20

結婚、出産、育児で視野が広がる女性ならではの経験を大切に

ファシリテーションは、会議やミーティング等で発言や参加を促し、話の流れを整理し、認識の一致を確認すること。これによって相互理解が深まり、組織や参加者の活性化、協働の促進にもなります。このファシリテーションに出会ったのは10年前、東京のNGO団体で働いていたとき。その後、札幌に戻って環境NGO ezorockの事務局で働き、会議の進め方として用いていたファシリテーションの研修依頼が増え、北海道のまちづくりの現場をサポートしたいという思いから、2010年4月「NPOファシリテーションきたのわ」を設立。今は講座やワークショップに託児を積極的に設けるなど、母親だから気づく視点を大切に活動しています。出産や育児で思うように活動できないこともあります。家族がやりたいことをできる状況・環境を、対話を通してつくっていききたいですね。



タイムスケジュール



地方でワークショップがあるときのスケジュール。その際、保育所にいるこどものお迎え等は夫と両親にサポートしてもらう。また、北海道立市民活動促進センターで市民活動相談員として週3回ほど活動もしている



PROFILE

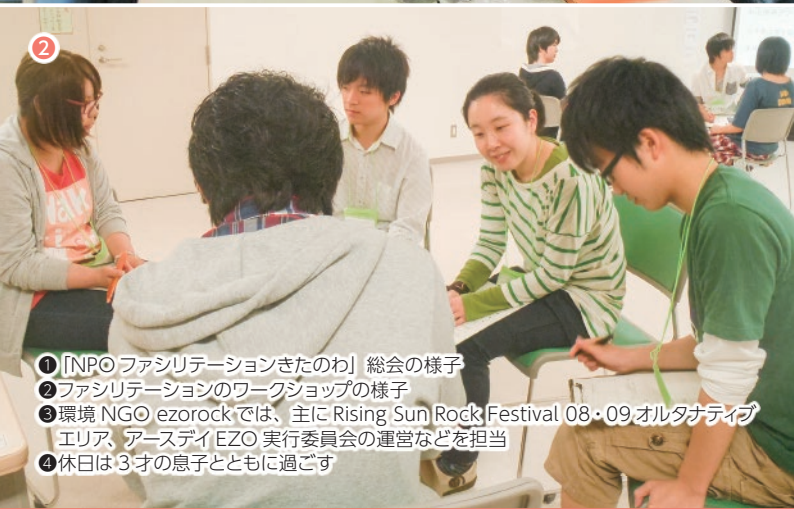
1980年生まれ。札幌の大学在学中に途上国で活動しているNGOと出会い、名古屋の日本福祉大学院へ。国際青年環境NGO A SEED JAPANで働いたあと、2006年に札幌に戻り、環境NGO ezorock事務局で働き、2010年ファシリテーションをする団体「NPOファシリテーションきたのわ」を設立。
<http://kitanowa.jimdo.com/>

現在の仕事(活動)について

地域のNPOや行政職員に、ファシリテーション研修をしています。道内の市町村で条例や総合計画をつくる際に、必要な民意を入れる場づくり(会議やワークショップ)の進行。研修や学習会の場において進行補助や運営補佐として関わることが出来るOJT制度を設け、共に学びあえる実践的な学習の機会をつくっています。

プライベートの過ごし方

休みは週1~2回必ずつくると決めています。その日はもちろん息子と過ごします。それがあから仕事楽しい。



①「NPO ファシリテーションきたのわ」総会の様子
 ②ファシリテーションのワークショップの様子
 ③環境 NGO ezorock では、主に Rising Sun Rock Festival 08・09 オルタナティブエリア、アースデイ EZO 実行委員会の運営などを担当
 ④休日は3才の息子とともに過ごす

ファシリテーションで地域課題を解決を支援

「やりがい」だと感じられること

ずっと市民活動をしています。市民活動とは地域の課題を解決し、地域をもっとよくしていくこと。その市民活動団体のチカラになれる組織でありたい。ファシリテーションによって話し合いの場が変わり、前向きな話し合いの結論がでる。それが行動に結びつき、地域が変わっていくことに繋がるのがやりがい。

忘れられないエピソード

2010年、前職を退職、団体設立、結婚、引っ越し、出産。人生の中で起こりうる大きな出来事を1年でやってしまいました。案外できるもんです。でも、出産して1年ほとんど仕事はできず、周囲は仕方ないとやさしい言葉をかけてくれたが、あえて厳しく叱ってくれた人がいた。悔しくて、情けなくて、有難くて、たくさん泣きました。

仕事と家事の両立で工夫していること

家族はチームです。家族間での事前の情報共有と相談、身体と精神の健康様態の把握、柔軟な変更。そして、時間が足りないと嘆くよりも「今ある時間で力を出し切っているか?」と自分に問う。子どもが生まれて仕事に費やせる時間が限られているのは確かなので、自分に与えられた時間を十分に使っているかを考えるようになりました。

女性が活動する上で不足していること

保育所に入れたくても入れない時期は本当につらかった。「働くな」と言われているかのようだし、子どもを育てることに孤独を感じた。乳幼児を連れても仕事ができる環境が欲しいものです。顔が見えるところで遊ばせて仕事や打ち合わせを済ませることができるとするのが理想。ママのハローワークのようなイメージかな。

札幌を拠点に活動することについて

道内各地で仕事をするにあたり、交通の要所となっている札幌にいることは比較的動きやすい。しかし、物理的に遠隔地になると動けないことも多々あるので、各地にメンバーを増やし、一緒に成長していくことが必要だと感じています。

社会で女性が活躍することについて

結婚、出産、育児を経験して、これまで見えなかったものが見えるようになりました。子どもを育てていく地元のことを考えたり、社会問題を自分事として捉えるようになり、自分の生活や人生と重ねて問題意識が生まれました。そして同じ立場の人の苦しみを少し理解できる。この経験は重要で、女性の強みにもなると思います。

今後の目標・展望など

とにかくどんなに小さくても、少しずつでも、地道に、地域の課題を解決していけるファシリテーションをやっていきたい。それができる人を増やしていきたい。これからますます多様な人たちが集まり、力を合わせて課題を話し合い、行動していくことが必要になる。ファシリテーションはそのための必要なスキルだから。

活動を望む女性へのメッセージ

活動は星の数ほどあります(笑)。必要としている人や団体はたくさんある。まずは自分らしくいられる、自分が居心地よくいられることができればいいのではないのでしょうか。わたしにとってはそれがいまの活動であり、仕事になっています。活動の使命に共感できるとともに、自分自身を知ることが大事なかなと思います。